

要再確認!

子供たちにとって

下のような状況が見られました...



障がい特性に応じた対応をする中で、よりよい「言語モデル」になっていますか?

教室環境等について

言語・コミュニケーション

整理整頓

- ロッカーから物がはみ出したり、落ちたりしたままになっている。
- 教師用机や棚の上が、煩雑な状況である。

- 掲示されている子供たちの作品や学習の記録等に誤字脱字がある。
- 子供たち同士の対話がしづらい席配置になっている。

視覚支援

- 掲示物が、子供から見えづらい高さにある。
- 光の反射により、ホワイトボードや液晶テレビ等が見えづらい席がある。

西部地区特別支援学級 指導のポイント
~西部地区の子供たちの力をさらに高めるために~

- 年齢や学年相応の言葉づかいをしている。
~ちゃん ⇒ ~さん ~だよね ⇒ ~ですね
はやくしなさい ⇒ ○○分までにしましよ
呼名の仕方等は校内で統一することが大切です。
- 指示は短く、具体的な言葉で伝えている。
筆箱を持って、後ろに並んで、図書室に行きます。
⇒ 図書館に行きます。出席番号順に並びます。
持ち物は筆箱だけです。
指示を板書するなどの視覚化も有効です。
- 曖昧な表現を避け、できるだけ具体的な言葉で表現している。
だいたい、このくらいです。 ⇒ 縦30cm、横20cm、重さ10kgです。
具体的な表現を使うことで、思考のプロセスを確認することにもつながります。⇒「思考モデル」
- 時・場所・状況に応じた適切な言葉づかいを意識している。
(例) 来校者と出会った場面で
・御用件をお伺いいたします。
・校長室でしばらくお待ちください。よろしくお伺いいたします。
対応中の体の動きなども大切です。⇒「行動モデル」
- 指示代名詞を使わず、具体的に話している。
「あれ」「それ」「あそこ」「そこ」
⇒ 体育館の東側の階段下に集合しましよ。
具体物を使ったり、図にあらわしたりするなど、他感覚に働きかけることも有効です。
- 声の大きさに気を付けている。
声の大きさの視覚化 (例) 声のものさし
視線を合わすこと、身振りや表情等も大切です。

- 体制整備**
- 時間割や学習グループが、学校体制の都合により構成されている。
 - 提出物の状況が掲示されている。

障がい特性に応じた対応をする中で、よりよい「言語モデル」を目指す。

言語・コミュニケーション

- 雑な字で板書している。
- 授業の途中で板書を消す。
- 子供のつぶやきに気付いていない。
- 同時に複数の指示が出る。
- 音声言語のみで長時間説明をしている。
- 感情的になり、自分の声の大きさをコントロールできていない。
- 子供の視線を確認せず、黒板等に書かれている部分を見ながら説明をしている。

平成31年2月校長会お役立ち情報

よりよいモデルになっているか 常に見直しましょう!



整理整頓・見通し

- 使わないファイルやワークを片付けるよう指示していない。
- 1時間の学習の見通しが提示されていない。

実態把握・ねらいの明確化

- 「何かを作ること」「行事に参加すること」がゴールとなっており、その時間に子供が身に付けるべき力が曖昧になっている。

学習の進め方等について